

開催記録

名 称	第3回会津美里町教育振興計画策定委員会
開催日時	令和7年9月22日（月）午後6時00分から午後7時45分
開催場所	本庁舎 2階 大会議室
出席者	委員別紙名簿のとおり（No.6 委員欠席） 事務局 歌川教育長、猪俣こども教育課長、小林生涯学習課長、 上野主幹兼指導主事兼教育相談室長、國分こども教育課長補佐、 馬場生涯学習課長補佐兼公民館長兼図書館長
議 題	第4期教育振興基本計画（素案）について ・これまでの取組と今後の方向性について ・施策の体系と展開について ・施策の指標（案）について
資料の名称	教育振興基本計画策定について
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input checked="" type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
内容	
<p>1. 開会</p> <p>2. 委員長挨拶</p> <p>3. 協議（座長：渡部委員長）</p> <p>第4期教育振興基本計画（素案）について</p> <p>（1）これまでの取組と今後の方向性について</p> <p>（2）施策の体系と展開について</p> <p>（3）施策の指標（案）について</p> <p>（4）その他</p> <p>【説明者：事務局（上野主幹兼指導主事兼教育相談室長・馬場生涯学習課長補佐兼公民館長兼図書館長）】</p> <p>説明者より、会議資料に基づき（1）について説明</p> <p>（委員長）委員の皆様方ご質問やご意見等ございますでしょうか。</p> <p>（委員）よろしいですか。1ページの文言の中で、文字が抜けていたりするものあるので</p>	

すから、ここはしっかりしておかないといけないと思いますので、確認したといえます。

（８）の学校教育施設設備の充実の①は、学校等となり等が入るのではないか。それから④がこれ太字になってるのだけどこれは間違いですよ。

（事務局）はい。

（委員）それから生涯学習の充実の（１）家庭教育の推進の③「みさと運動の充実と普及・啓発」というふうになってますので、合わした方が良いのではというのが１点と、内容の検討はこの委員会でやらないですよ。時間がないからね。

（事務局）はい。

（委員）句読点とか、それから表記の統一。例えば児童生徒に「・」が入ってるのと入っていないのが混在してるので、そこら辺の統一をした方がいかなというふうに思いました。それから、生涯学習の方は、今後の課題が書いてないのもありますし、それから昨年度のものだということが残っているの、そこら辺の検討が必要かなということと、今後の方向性が全て体言止めになってるのに、用言止めになっているところもあるので、そこら辺の検討はやはり課題にしておかないと、その整合性、統一性が図れてないなというふうに感じましたので、検討した方がよろしいんじゃないかなというふうに思います。

（委員長）今のご指摘の点は事務局如何ですか。

（事務局）はい。再度事務局で表現、表記、それから形式というようなところで、今後の方向性を体現止めにし、ご指摘いただいたものを再度点検して修正させていただければというふうに思います。

（委員長）他の委員の方々、ご意見如何でしょうか。

（委員）今後の方向性という部分で、それぞれの後はっていうところが、下の「今後の方向性」に要約されて行って、今後の方向性っていう中から、次年度のキーワードの所に整合性が出てくるととても良いなというふうに感じています。

（委員長）事務局からは。

（事務局）ありがとうございます。なお本日メインでお願いするような形になる、まさに施策の具体的な中身で出てくるキーワード等々についても、もしかしたら今後の方向性というような形で、こちらの方に追記させていただくような中身も出てくるのかなと思っておりますので、その辺り踏まえながら修正させていただければというふうに思います。

（委員長）よろしいでしょうか。他の委員の方々、ご関係のところをご覧いただいて何かご意見等ご質問等あればお願いできればと思います。

（委員）よろしいですか。皆さんお話されたこともあるんですけども、文言として引き続きというのと、その今後という処理の仕方、意図的にどういうふうにするというのが説明いただければ大変ありがたいと思います。引き続きとは継続して同じような形で入るこれもというのは、それをもっと強化していくとか、充足していくとか。そういう捉え方でよろしいですか。

（事務局）この辺り生涯学習課と連携取りながらこども教育課と生涯学習課、同じ形で統

一した形でお示しできるといいのかなと思いますので、その辺りも含めて修正の方向で進めさせていただければというふうに思います。

（委員）例えばですね何が言いたいかっていうと、その正式な固有名詞といいますか、それをどこまで掌握してるかっていうことで、例えば、21 ページにありますように①の「引き続き、地域スポーツクラブ」とは、これ何を指しているのか。多分これが「クラブ衆」だったらこの地域スポーツクラブという形でいいのかどうかっていうことと、あと 25 ページの例えば①の中の文化団体なのか協会なのか、この辺整理した方良いのかなと思ってましたので、述べさせていただきました。

（事務局）ありがとうございます。正しい正式な語句が使われているかどうか再考します。

（委員長）他に何かございませんでしょうか。よろしいでしょうか。いくつかご意見等いただきまして委員の皆さんありがとうございます。今後も引き続きというようなところで、これから文言の整理等いただけるということですので準備をどうぞよろしくお願いします。専門用語についても、ご指摘いただきましたので、その辺り整理いただければと思います。他にご意見等ございませんでしょうか。

（委員）いいですか。5 ページの③のところなんですけど、これでいいと思うんですけど、「幼児期から 15 歳までの見通し」を見通して、15 歳は中学卒業なんですよ。こういう表現するんですね。

（教育長）別な表現だと「義務教育終了段階まで」

（委員）その方が良いかなと思います。

（事務局）背後関係が確かに年齢等変わってくるので、修正をさせていただければと思います。

（委員長）よろしいでしょうか。では（1）のところについてはご意見等いただきましたので、ご修正いただいて次回、お示しいただければと思います。では 2 番目に進ませていただきたいと思います。「（2）施策の体系と展開について」資料 2 の説明を事務局よろしく願いいたします。

説明者より、会議資料 2 に基づき（2）について説明

（委員長）ありがとうございます。前回の委員会でご指摘いただいたと思いますが、教えていただいた委員の皆様方、文言修正いただきましたが、いかがでしょうか。よろしいですか。

（委員）「子ども教育の充実」で、新しく「本郷こども園の整備」が入ったんですが、これは本郷こども園だけなんですかね。それが 1 つと、これ 5 年間かかるのか 5 年をかけるのか。二つ目は 3 の地域文化の振興の（3）は、これ「歴史・文化」というふうに表記したと思うんですが。「・」が入った方がいいのかなということと、（2）（3）（4）が施策が 1 個ずつなのですが、これは意図的なのかこれだけなのか。他の基本施策とのバランスを考えたときに、果たしてこれでいいのかなという。3 点ですか。質問させてください。

（事務局）ここの③に改めて本郷こども園のみ入れさせていただいたところは、これから

整備というよりも新たに作り変えていくというようなところで、非常に大きなプロジェクトになっておりますので、(3)の学校等の施設の通常の整備とは異なりものになるのかなというようなことで入れさせていただいたところでございます。それから2点目の5年間かけてというようなところは、これはこれからの進捗状況に関わる場所があると思いますので、現時点ではっきり明確にお示しできないところかなと考えております。

(委員) 現段階でどういうふうに整理する方向で考えてるんですか。

(教育長) 今基本構想がほぼ出来上がりまして、これ本郷こども園だけです。本郷こども園の老朽化を受けて、移転新築の形で今考えておりまして、タイムスケジュールから多分この基本計画の5年分ぐらいかかるのではというふうな想定で今いるところであります。

(事務局) 「(3) 地域文化の振興」の(3)の歴史文化の「・」のところが抜けてしましまして大変申し訳ございませんでした。こちら修正いたします。ご質問のそれぞれの項目について施策が一つではないのかというご質問だったんですけども、こちらの方でそれぞれに対応する事業がございますので、1個1個っていうのがある程度の意図的な部分ではございます。

(委員) このままで行くのか。

(事務局) 一応このままに進めていきたいなというふうに考えてます。

(教育長) ご意見をいただいて検討する必要があるように思いますね。郷土資料館の部分も「無形民俗文化財の保存活動」と書いてあるがこれだけではないので、ご意見いただかないといけない。ちょっとミスマッチかなと感じます。むしろこれが(4)の文化財の保存と地域文化の継承にかかっている部分も大きいかなと思うんですね。

(委員) 質問なんですが、その前回基本施策に関しては、その大元のものが決まっているのでいじれないというようなお話だったかと思うんですが、これはいじっても大丈夫な部分になったのでしょうか。

(教育長) 基本的にいじれないんです。ただ、ご意見いただいた通り、郷土資料館の活用というような特に異質な表現だったので、特定の施設名だけだなというので、それを少し緩和した表現の方がいいだろうということで、何とかここだけを直してほしいというふうな要望を出して直していただける方向でいるんですが、ちょっと他は難しい段階で今実際にパブリックコメントを実施してる段階でこれ以上は難しい段階とか思います。

(委員) ありがとうございます。

(事務局) 施策の部分については、最初にも申し上げましたように皆様からのご意見いただいた後、さらに追加したりとかそういう修正可能というふうに思っております。実際に2ページ以降にこれまで入っていったようなキーワードであったり、あるいは新たな課題というようなところも踏まえて、キーワードの方をこちらで想定できるものを挙げさせていただいたところではあるんですが、皆様方の専門的な部分からさらにもっとこういったことをやったらいいのではないかなというようなご意見を本日それぞれいただければなというふうに考えてございます。

(委員長) 皆様いかがでしょう。今は施策の部分についての案を出して良いということでしょうか。

(事務局) 可能であれば、例えば基本施策の 1 それぞれを一つずつ皆様からいろいろご意見頂戴して進めていただければありがたいというふうに思っています。

(委員長) 1 の子ども教育の充実についてということでお聞きすれば良いですか。では委員の皆様方、資料 2 の第 4 期計画の体系図案下の 1 子ども教育の充実のところ委員の皆様方ご意見等いただける人はお願いしたいと思います。

(事務局) 失礼しました。その中身が 2 ページ以降キーワードで挙げさせていただいているので、それぞれの基本施策 1、2、3、4 の順でご意見いただければというふうに考えておりました。

(委員長) では 2 ページ目の、Ⅱ施策展開の 1 子ども教育の充実、以下のところの基本施策 1 の①②③④とございますが、ここにあるキーワードについてということですので、委員の皆様方、ご覧いただいて、ご意見をお願いします。

(委員) 質問いいですか。各基本政策の中で、その下に基本目標 1、2、3、4 とありますよね。これは、前のをそのまま踏襲するんですか。それとも基本目標も変わるんですか。

(教育長) 基本目標は、例えば基本施策 1 の「①園・小・中学校連携の強化」であります。その下にキーワードが並べてございますけども、このキーワードを並び替えて基本目標を作るということになってくるわけです。

(委員) なるほど。これは新しく作るんですね今日も。

(教育長) もちろんです。新しく作りますので、そのための内容として、こんなキーワードを盛り込みたい例として挙げているわけなんです。

(委員) 次期の計画の基本目標は 3 つになる訳ですね。

(教育長) 基本目標は今のところこのままの提案ということなんですけども、変えることも可能ですからそこはご指摘いただければ、新たなものを盛り込んだり削ったりというのは可能だと思います。

(委員) 6 ページの「生涯学習・スポーツの充実」で基本目標 2、3 とあるが、今までの計画目標だったので、ここは当然変えなくちゃいけないと思っております。そして 8 ページの「4 地域文化の振興」となってますけど、これは 3 ですね。これ間違いですよね。

(事務局) 失礼しました。これ間違ってます。

(委員) 基本目標はこれから検討するってということですね。

(事務局) はい。

(委員) わかりました。

(委員) 基本施策 1 の幼児期からの一貫した学びの基礎力っていうのはどういうふうイメージで捉えているのか教えていただければありがたいんですが。

(教育長) はい。プロジェクトの中で捉えているのは大きく二つありまして、一つは非認知能力、いわゆる生きる力といいますか、それからもう一つは、幼少期から一貫して読解

力の育成ということで考えている所でございます。その他にも要素がたくさんあるわけなんですけど、健康面であったりですね。

（委員）一番最初質問をしたんですが、資料 1 の今後の方向性そこに示された中身というのは、こちらの方にどの程度反映してくるのか。キーワードが盛り込まれてくるのか。若しくはそれを踏まえてこういうことをやりたいんだっていう形でキーワードは少し距離を置いた形で選定されているのかっていう辺りをちょっとお聞きしたいと思います。

（事務局）現時点で完璧にリンクしてるっていうようなところまでは行っていないのは実際のところでございます。先ほど申し上げたその辺りも含めてご意見いただいたことが今後の方向性の中に修正されていって、その辺りの整合性っていうのを図っていく必要があるものというふうに考えております。

（教育長）内容的には多分リンクがされている部分だと思うんですが、出てくる施策の名前だったり事業名だったり、そういうところがより細かいものが出ておりますので、その辺は新たなものに、次期のものに名前として直接出てくるものと出てこないものがあるというご理解をいただきたいなと思います。

（委員）ありがとうございました。本当に細かいところ 1 点で、基本施策 1 の③の中のキーワードで「立志式」とあるが。

（事務局）すみません。前回の施策の中で出てきていたものをそのまま抜き出させていただいたところで、私自身が正直に完全に把握していないので、各学校さんで立志式がどの程度どのような形でということも含めて実際に実施されているかどうか、今後どうしていくかというようなことも含めて確認していく必要があるかなというふうに考えてございました。

（委員）今はもうやっていない。

（事務局）あくまでも前回の中で重視されて載っていたものなので、どこまでかは継続されてきたもの。ただ今はなくなっていてその理由があるのであれば、あえて復活しなければいけないものではないかと思いますので、現在その実情に合わせてまたそれも復活すべきなのかすべきじゃないのかなっていうことも踏まえてご意見いただいた上になるのかとは思いますが、学校現場からするとかなり難しいのではないかなというふうに思いますので、すみませんが素直にカットさせていただくというような方向でよろしいのかなと思うのですが。

（教育長）以前教育委員会からしっかりやってくれっていうふうなお願いをしてたんですが、悉皆であっても学校の特性におまかせしますということで、令和 4 年度から少しトーンダウンさせてきたところですよ。多分現在はやっている中学校はなくなっているんだろうと思います。

（委員）標記で薄くなっているところが新しく加えたものと理解していいですね。

（事務局）そうです。カラーで印刷できなかったのも、薄くなっているところ赤字で実は入れさせていただいたようなところなので、前回の中でこちらの方に載っていなかった今

後必要であろう、実際に現在行われているだろうというようなものを入れさせていただいたところでございます。

(委員) ①の園小連携のところなんですけれども、友達との関わりってということでキーワードが挙がってるんですけど、なんで友達との関わりだけを取り上げたのかなっていうのがあって、ではどういう言葉が適切かなと考えたときに、園は遊びの中の学びとか、育ちの連続性っていうところを大事にして、言葉をどうしていこうかと思ったときに、遊びと学びを繋ぐとかの方が適切なのかなっていうふうに思いました。細かいことを言うと、なぜ5歳児は三つの領域であったり、それ以降は5領域であったりっていうところでやっているのか、社会性だけを取り上げるのではなくて、そういう言葉にした方がいいかなと思いました。あとその次の認知機能の強化っていうのはどうなのかなと思って、その非認知能力の間違いではなく、あえて認知能力にしたっていうのは、例えば、その下にある幼児期の終わりに育ってほしい10の姿の具現化って書いてあるんですけど、10の姿は、到達目標ではなくて、方向性というふうになっています。それは遊びや生活を通して育んでいくものということで私達は解釈しています。なので、その10の姿の中に、多分認知能力は育っていると思うんですね。だからここに認知機能の強化って入っているのかなと思ったんですけど。あとは、10の姿の具現化っていうよりは10の姿を繋げていくための具現化っていう言葉の方が合っているのかなと思ったのでちょっとお話をさせていただきました。

(事務局) ありがとうございます。まさに事務局の方で入れさせていただいたところでしたので、そういったご意見いただければというふうに思います。担当の思いとしましては、特に園小連携というようなところで行くと、5歳児と1年生というようなところの繋がりの中で、やはり今、人と関わり方が苦手だというような子供だけではないんですけど、そういった関わりが必要になってくるのかなと思ったところではございます。特に今ほどありましたように、3歳児とか4歳児とかではなくて、5歳児になってちょっと出てくるところが他者との関わりというようなところ、それはプログラムなどの方でもそういったところを入れさせていただいて昨年作らせていただいていたかななんて思って、ちょっとこのあたりは特出ししてもいいのかななんて思ったところではございます。それから認知機能の部分は、小学校の低学年においてコグトレというようなところを行っておりまして、数を数えたりとか、物を覚えたりとかっていうようなことをオンラインでできるような形で実施しているものなので、これは園というよりも、小学校において行っていただくことで繋がっていくかなというようなことで書かせていただいたものでございました。三つ目の幼児期の終わりまでに育ってほしいというようなところは、おっしゃられたように実際に必ず成し遂げなければいけないというものではないと思いますので、繋げていくためのというようなところを入れさせていただくのと、ここもちょっと括弧書きさせていただいたのは、そのための手立てってまで書いていいのかっていうと、いやそうではないだろうなっていうところはちょっと感じてはいたところではあったので。ただなるべくばやけない形で町

の方針であったり施策だったというのを決められるといいのかなって思ったので、少し入れさせていただいたというところではございました。この辺りも含めてご意見いただければと思います。

（委員長）委員がおっしゃった通りかなと思うところが多いので、すごく進め方をどうしたらいいのかなと思いながら、今言ったんですが本当に幸いご指摘の通りではあるので、言葉の使い方とか、途中事務局もおっしゃってましたけど、これが小学校の方に何かウエイトがあるのか幼稚園の方にウエイトがあるのかっていう所で変わってくるのかなと思うので、やはり委員もおっしゃっていただいたように、ご提案いただいてキーワードを入れた方がより現実的になるっていうか実際の取り組まれてる形なのかなと思って私も聞いていたんですが。特に遊びと学びを繋ぐようなお話なんかもおっしゃってる通りなのかなと思うので、その辺りを小学校と同時に繋いでいくかっていう遊びの中でも遊ぶイコール学びですから、私も遊びサークルを作ったのですが学びサークルだったんだと後で思ってますね、いうぐらいそういったところが用語の使い方とかも小学校と幼児教育と違う部分もあるので。その辺り良いご意見、先ほどいただけたのかなと思うので、その辺りより現実的かというと、実際に実践されてると思うのでその両方を揃えていかれるといいかなと思ってお話聞いておりました。

（事務局）ありがとうございます。ではまず上のところでは遊びと学びを繋ぐというようにキーワードの方を入れさせていただいて、最終的には冊子にする際に、文章表現になっていくようなところもございますので、まさに今のような専門的な部分でまた文章化したものを見ていただいてご修正いただくようなところも出てくるかなというふうに思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

（委員長）特に他の方々も今のやり取りとか多分なんですか、かなり幼児教育の話なので、なかなかピンときにくいところもあるんだと思うんですけど、実際に委員がおっしゃる通りなので、それを反映して文言化した方がより正確な表記というか意味合いなのかなと思うのです。他の委員の方々、いかがですか。

（委員）非認知能力ってちょっとおっしゃっていて大きく二つあって、自己の内なる力っていうその自分に関する力と、あと人との関わる力、社会性に関する力というのがあったんです。でも詳しく言えないですけど、その注目される意図っていうところを見たときに、そのAI時代のスキームの授業で、あるいはその教育だと社会課題への対応ということで、何が言いたいかというと、AI時代のスキームの重要性はこのAIっていう言葉がここにふさわしいかどうか分かりませんが、そういうふうなものを言葉の必要性っていうのはどうなのかなと思ったもんですから、質問してみました。

（事務局）そうですね。生成AIも含めて通常のAIであれば教育現場で当たり前に使ってもらって構わないところなんですけど、生成AIの活用の仕方については、各設置者において、市町村において方針を定めて使い方を考えるようにというようなことが示されております。正直国も使えとも使えなとも言っていないというような状況であるというような部分

で、今後 5 年間を見据えた際に、少なくとも子供たちに積極的に使わせてっていうことにはならないのかなと思います。逆に先生方の働き方改革の一環の部分で、先生方の資料作りとかそういったところにうまく活用できるようであればそれでいいのかなと思ってはおります。まさに点数とか目に見える力だけじゃなくて、実際に世の中に出て必要な力っていうようなところでは、やはり非認知能力学ぶ意欲なども含めてですけども、そういった社会性人間性っていうようなものをきちんと育てていくっていうようなところが重要なのかなというふうに思っておりますので、あえて AI 時代だからというところ皆様のご意見いただきながらというふうに思っています。

(教育長) なお AI については、ご存知の通り国において次期学習指導要領の検討に入ってるわけなんですけども、諮問の中でもですね、結局生成 AI がこれだけ浸透している状況の中での外国語教育のあり方とか具体的に示す中身があります。ですからもし入れるとすれば今後国の方針がどう出るかわかりませんが、基本施策 2 の③の「ICT の活用による学びの推進」とかそういうところに入ってくるかどうかっていうようなものなのかなというふうに思っているところであります。

(委員長) 冒頭でも話したのですが、今教育長がおっしゃった通りで、今検討されてる最中でなかなかタイミング的におっしゃる通りどこまで入れるかっていう難しいところなのかなと思います。私も今日、プログラミングの生成 AI を使って自動で作っていくみたいな単純なプログラマーはいらなくなるんだみたいな記事を読んだりとかですね、そういったことなんかも進んでちょっと今、みなさんおっしゃったように、完全に整理されたり体系化されてるわけではないので、今進行中のような私のイメージなので、ちょっとこの時期にどこまで入れるかっていうのはちょっと難しいのかなという印象を今日来るところでも思ってきたんですけども、教育長がおっしゃったような ICT の活用だとかそういったところになるのかなと。

(教育長) 実際どこでもそうですけども、さっき言った基本施策 2 の③にあるドリル等の活用というのは、実際にはこれも AI のドリルを活用しておりますので、あとは実際に英語教育とかの中で AI アバターによる英語学習とか、多分そのようなのがそのうち出てくるんだと思うんですけど、振興基本計画の中にまともにまた出す段階でまだそうではないような気がしました。

(委員) 分かりました。

(委員長) 非常に難しいところではあります。私も幼児教育の方にいる者ですから、英語教育とか外国の教育がどこまでこれから必要になってくるかって非常に難しい、翻訳の方とかもできて本当に読解力、教育長も先ほどおっしゃったように読解力非常に重要ですけども、一方で大学入試とか入試の方だと読書感想文が一番要らないっていうのは、報道でもあって、代理業者に頼んだりしてるんだって言うんです。試験科目がないのでっていうことなんかも、都会の方だと言われてしまってるようなんですね全くそうは思わないんですが、しかし今の入試制度でいきますと、そこが一番不要だっていう考えもあるところ

なので、この辺りは町のお考えを入れていただいて、読解力私の所の学生なんかでも、やっぱり読んだり書く力とか、日本語でですねそれが一番重要かなと私自身思ってるんですけども、その辺りの町としてどのように基本計画に組み込んでいくのかっていうところが皆様方のご意見をいただきながら、ご検討いただいた方がいいのかなと思います。他の委員の方々いかがでしょうか。

（委員）いいですか。②確かな学力の育成の中で、授業改善の（主体的・対話的で深い学び）、この文言は改訂学習指導要領でもこれ継続されて使用されるんですかね。

（事務局）最後、答申の形で出てくるかどうかですが、ただ基本的な考え方に立つものはあるのかなというふうに思います。やはり前回の学習指導要領改訂の中で、これを中心に据えて行ったところでしたので、これが新しい学習指導要領の中で、この要素が全く消えるかというところ、そこは消えないのではないかなと思っています。

（委員）いつできる予定ですか、改定学習指導要領は。

（教育長）中央教育審議会の答申が来年でまして、そしてその後で編成作業にかかりますから。

（委員）2.3年かかるのですね。

（教育長）ただ、答申の中でも現行学習指導要領の中身について、学力感であったり、今話題にされた主体的に対応できる深い学びの理解と、現場での実践が不十分だと総括の中で反省がされていますので、ですから大元はそのまま引き継がれるという理解で、多分誰もが思うんですが、それをより理解しやすい、実践しやすいものに変えていかなきゃならないっていう反省に立って継続する方向ではあるように聞いています。

（委員）文言自体が。

（教育長）文言自体ががそのまま出るかどうかはちょっとまだクエスチョンですけど、現行学習指導要領の理念はそのまま引き継ぐだと思んですが。

（委員）理念は分かるのですが、この文言とかキーワードとかをこの5年、美里町の教育の中に入れて差し支えないのかな。もし途中で変わっちゃって、そのときは変えるしかないわけでしょ。

（教育長）勿論そうですね。

（委員）だからどう何でしょうね。理念としては当然継続されるというのは分かりますけど、どのような文言を入れておいた方がいいのかな。

（教育長）決まり文句として、これはちょっと流行しすぎたところあるんですけど、ただ主体的な授業を作るのは当たり前ですし、それから対話的な授業も当然当たり前ですし、ですから、キーワードとしては私は内容的には問題ないというふうに思っています。

（委員）よろしいですか。そこに最近個別的成果ってなってますよね。そこが今まではその含まれただけだったのに、その個別的成果も1人1人という個別性もあるので。

（教育長）個別最適な学びについては、そこも含めたいところなんですけど3ページにあります基本施策2のところ、学びのセーフティネットとか様々なところで、個に応じた学

びとかないと入れていくしかないのかなと思ってます。当然確かな学力を作るためには、個別最適な学び、当然必要なわけなんですけども子供たちの多様性に対応しながら学びの環境を整えるというのは、不登校も含め大変なんですけど、特別支援教育も含めてですね。

（委員長）半端な伝え方であるのかもしれないですけど、完全実施なのは 2030 年なので、幼児教育とかが先行してやるものですから、なので移行期間が間にあるので大丈夫ではないかと思います。おっしゃるように追加の文言とかも入っているかと思うので、それも対応いただいてるところなので、はい。

（委員）違う視点で。今予算取りがされてる施策というものは、多分踏襲していくと思われるので、そういったもののキーワードっていうのは当然入ってくるかと思うんですが、例えば読解力リーディングスキルみたいなもので、今回のキーワードからは、落ちていて、それは、今後施策の予算がついたものからは外れていく予定なのか、続けていくのかという辺りはどうなのでしょう。

（事務局）はい。検証しながら進めていかなければいけないものというふうには考えております。教育長からもありましたけど読解力の育成というような視点では、まさにリーディングスキルというのは学校教育の中でというか、実際には子ども教育の中にはまだ完全に入っていないんですけれども、非常に大きな進歩なのかなと思っているところではございます。ただ予算の問題であったり、対象学年が中学 1 年生だけみたいなのところも含めて、どこまで入れるべきかなというところなどはちょっと考えたところではございました。ただ、町としては校長先生方に学習状況向上委員会の中で、リーディングスキル部会作っていただいておりますので、文言として上げることは可能かなというふうに思っております。

（委員）今後予算取りを続けていく。それから地域ごとのキーワードは、やはり網羅しておいたほうがいいんじゃないかと思います。

（事務局）ありがとうございます。今のご意見踏まえてリーディングスキルという文言も入れて行きたいというふうに思います。

（委員）4 ページについていいですか。基本施策 3 の①のキーワードに本郷こども園の整備とあるのですが。

（事務局）失礼しました。前回から修正不十分でございました。これ取り出ささせていただいたので、修正させていただければと思います。

（委員）そうですね。5 ページの基本施策 5 の③は、「本郷こども園の整備」、そして基本施策 5 は、「幼児教育・保育環境の充実」になりますね。

（事務局）はい。そのようになります。

（委員）本郷こども園の整備というところで、説明でハードウェアのところであってということがあったんですけれども、この施策 5 の幼児教育の充実のところ、本郷こども園の整備事業がくると、本郷こども園だけが特化した何か幼児教育をするのかっていうふうに私はちょっと捉えてしまって、ここはどういう形で認識すればいいのかなと思います。

（教育長）ソフト的には多分基本施策 5 の①のところで、全ての園でっていうようなことで吸収できると思います。このハード的な部分は、なかなか予算絡みもあるんで、本郷こども園の名前を消すとどこでやるんだって話になりますので、ここは入れざるを得ないのかなというところですかね。

（委員）要望なのですが 7 ページの基本施策 2 の「②子どもの良好な成育環境の確保」にキーワードとして、前回も何がいいだろうということで考えたのですが、ここに「みさと運動」を入れた方がいいんじゃないかなというふうに感じているのですが、どうですか。

（事務局）ぜひ委員の皆様でご意見いただきたい。

（委員）関連してなんですけど、先日小学校 2 年生の授業に会津短大の学生が来てくださったんです。それが全部美里町出身の方だったんですけど、帰り際にスリッパを並べてくださり「そのままでいいですよ」とお声掛けをしたときに、「いや、小さい頃みさと運動で履物そろえの教えで」それが 4 人が 4 人揃って綺麗に並べていつてくれたのはこの教えなんだろうと、こいうことが継続されてるなっていうのはちょっと感じた次第です。

（教育長）町の青少年育成会議の中で、結局進めているわけなんですけども、担当課生涯学習課も一部担っているところでやっているのですが、なかなかその地域全体で取り組みがちょっと今トーンダウンしてる感じがするんですね。学校だけでやっているっていうような状況があったり、確かに子どもたちを見てると、学校の中ではちゃんとやってるんですよ。ところがうちに帰るとなかなかその通りできないっていう部分があって、親御さんの評価なんか見るとですね、学校評価の中であんまりポイント高くないですよ。返事してますかとか挨拶してますかとか履物を揃えてますかとか、何か地域の方にも子どもたちも最近は挨拶がいいとかっていう声も聞くんですけど大人の方がやってらっしゃるのかと言ったらやってないんじゃないかなと思ったりするんですね。大人の方が子どもに声をかけると不審者扱いされたりして、なかなか難しい状況があるんですね。やるとすると、本当に町全体で挙げてやるような状況でも私はいいと思うんですが、子どもたちに対するというよりは、本当に何て言うんすかね、町民全体で進めていきましょうっていうふうに盛り上げていかないとあんまり意味がないことなのかなと思ったりもします。学校の中では結構やってらっしゃるので、対象が子どもというふうに限定すると、十分やってますよっていう感じなんですけど、子どもは良好なのですから。ですからその子どもの良好な成育環境の確保の中に実は大人の声かけといいますかね、大人が見本を見せるとか、そういう意味合いでも、子どもの成育環境の中、私は意味があるもんだと思う。

（委員）親教育ですね。

（委員）放課後こども教室をやっているのですが、うちは新鶴なんです。新鶴にお嫁に来て知らない中学生が「こんにちは」って挨拶されてすごいなと思ったのが第 1 印象だったんですけど、実際自分の子どもたちがみさと運動に入ったときに先生がおっしゃったように、私はあまりアンケートもいいことを書いたことはないですね。例えば部活で見たときに、野球部の子はやっぱり挨拶がいい。バレー部も挨拶がいい。バドミントンはどうな

のかとか、学校でみさと運動をやってもらってますけど、やってることやっていないところがあると思うんですよ。履物もやっぱりその子によるし、学校で怒られるから揃えると思うんですよね。今教育長がおっしゃったように、変に声かけると、何か不審者だと思われるので、本当難しいところだなと思うんです。挨拶はどこに行っても基本だし、挨拶をしなくてはいけない場所で挨拶って欲しいところなんだなと思っていて、誰彼構わず「こんにちはこんにちは」やってると本当に今の時代にそぐわないので、自然に「こんにちは」って言えるような子供たちが育ってもらいたいなっていと思いました。やるならばしっかりと地域全体でとお話を聞いてそう思いました。

（教育長）おっしゃる通りですよ。どうですか生涯学習課。

（事務局）「返事・挨拶」とかはそれを返すとかっていうのは、ごくごく自然なことだったかなというふうに思います。みさと運動が、始まる前に私も中学生のときに担任の先生から履物そろえを言われたのをすごく覚えてて、今でもやってます。その時その時になんでそうやらなきゃいけないのっていうのがしっかり教えてやると、それは一生ものの美德として身につくのかなというふうには思います。勿論声かけとか「こんにちは」って挨拶もそうですけども、それは言われたからやるんじゃないで、そういう意味で、感謝するよとか、感謝してるますとかっていうことを、ちゃんと教えることが大事なのかなというふうに思います。

（委員）私は商売をやってるものですから、毎日店の前を歩いている子とか近所の子でもみんな結構「ただいま」と言ったら「おかえりね」って挨拶するんですけど、そんな感じで結構挨拶できるなって思っ見てるんです。

（委員）何処どこ市の「なんとか宣言」みたいに、美里のなんていうか少し骨の通ったアイデンティティみたいな部分に育ってるんじゃないかなっていうのが純粋に思ってるところがあって、小さな子たちがそういった教えとかを教えていただきながら大きくなると、それこそ大人でそういうことをやってきましたっていう町民も育つっていう側面もあるのかななんていうふうには思ったりしました。

（教育長）大事ですよ。多分なんで落としたかという事です、ちょっと知恵が足りないところもあるんですが、みさと運動を具体的な生涯学習課事業に降ろしにくっていうのが少しありまして、じゃあ何をやったら町民全体に返事できるように、挨拶できるように履物を揃えるようにできるだろうっていう、予算を付けて一体なにやるんだってね。一回一回点検するわけにはいかないし、なかなか難しい。せいぜい目に見える掲示物作ってまた配置するとかそのぐらいしかできないみたいなのところもあってですね、そこはちょっと知恵を絞るってことで、みさと運動が大事だというご意見は十分いただいたと思いますので、多分生涯学習課の方で何らかの知恵をだしていただくという事で。

（事務局）はい。

（委員長）よろしいでしょうか。他に何か意見等ございませんでしょうか。特に関連の部分について。

(委員) 7ページの基本施策4の「生涯スポーツ推進」の中の③のキーワードに「地域課題の解決」っていうのがあるんですけども、スポーツイベントをしようとしても、地域によって参加して下さる人数が全然違ったり、そもそもそのイベントをやらないって決める地域があったり、いろいろなんですけどそういうのをどういうふうにして解決するつもりなのか、つもりというのは変ですけど何かお考えがあるのかなと。ただここにこう書いてあるだけでは具体的な活動内容がないと解決しないと思うんですね。その辺はどういうふうに考えていらっしゃるのか聞きたいなと思ったんですけど。

(事務局) 今おっしゃられるように、ちょっと前のいわゆるコロナ禍、コロナの関係でずいぶんイベントを自粛していて、それから「今度復活させようよ」「もう一度やり始めようよ」っていう機運が正直かなり落ちてるところがあります。もちろん地域的な差はございますけど。ただ生涯学習課の方で指導員とかが中心になりまして、その地域の中の主要な方に「もう少しこれをやってみましょうよ」と声掛けし入って行って「また少しずつ復活させていきましょう」っていうのがいくつか事例が出てきましたので、何もしないでたまたまもう地域も何の活性化もない楽しみもない交流もないっていうところから、一つのスポーツ活動を通じて、その交流であったり、中が少し活性化するっていう意味合いでの地域課題っていうところに少しそこの問題に入り込むよっていう意味合いで「地域課題の解決」っていうのがキーワードに出させてもらいました。

(委員長) 他にございますでしょうか。

(委員) ⑤のスポーツ交流促進で、今までいわゆる「ふれあいウォーク」で、全国とは言いませんけれども、県内各地からお呼びしたそういう交流のイベントがあった一方で、子どもたちが姉妹都市である檜葉町と交流をしているわけなんですけども、今回ふれあいの森運動公園陸上競技場改修にあたって、大きなイベントはなくなった。各地域地域でのいわゆるちょっとしたイベントをするわけなんですけども、「交流の促進」のその「交流」っていうのをどういう形で復活させるのか。そこをちょっとですね、未来像になってしまうんですけどその辺のお考えなのかっていうことをお聞きしたいなと思います。極端に言うと、ふれあいウォークを復活させそれを交流事業で捉えるのか。結構他の方から「今年やるのかやらないのか」といったそういうオーダーがあったものですから、それをどういう形でこれからの未来についてお考えをお聞きしたいと思いました。

(事務局) 檜葉町からウォーキングとかのお誘いもクラブ衆さんを通じてあります。そこでスポーツの交流ということで町民同士がお互い仲良くなり、そこまできなり醸成するというのが本当の未来像になってしまうんですけども、その中で、相手のいいところを取り入れたりこっち側の方から良い部分がありますよっていうことで、少しでも交流が始まってもらえればそれは嬉しいことなのかなというふうに思ってます。二つ目のウォーキングなんですけどもちょうど今、ふれあいの森運動公園が工事にに入っているので、今年は今の時期の開催は難しいとしたとこですけども、来年のウォーキングに関しても色々なご意見をいただきながら、どうするのか、ある程度かなり大きな事業になりますので、マンパ

ワーだったり、地域のどこまでの方の協力ができるのかなという同レベルの開催ができるのかなっていうことをご意見伺いながら話していけばなというふうに思ってます。

（教育長）ふれあいの森陸上競技場も更新をしてるわけですけども、全天候型のトラックとなり活用という段階になったときに、その交流人口の増加っていうことを含めてウォーキングなのかランニングなんか駅伝なのかわかりませんが、そういうものはどんどん開催していくべきだと思いますし、加えて町民のその健康作りの拠点としての何かソフトウェアを開発していかなければならない。みんな集って例えばちょっとしたトレッキングをしたりとかですね、様々な健康作りのための活用というような部分では、やはりここにもう少しキーワードを含めていく必要はあるのかなとは思います。

（委員）スポーツ少年団とかそういうものについては、例えば文言として、生涯スポーツの推進で幼少期からずっと続けることによって、生涯スポーツを続けるものが必要だと思うので、どの位置にあるのかなっていうのと、あと今、スポーツの人のやる見る支えるっていう形でスポーツが展開しておりますけども、それがスポーツイベントの中に入ると思うんですが、それこそスポ少という部分とあと個人的な学校、例えばスポーツ推進委員さんが出前講座としていろいろやってるわけですけども、何かそのスポーツの楽しさ、あるいはニュースポーツの面白さを伝えるべく、いわゆる幼稚園小学校あたりでやってるところは多分やってますしとかないかもしれませんが出前講座として、小学校の何学年あたりにこういうスポーツがあるよっていう形で共有したら、スポーツ好きになるし将来的にその運動習慣もできるだろうし、何かそういう仕掛けができないかないつも思ってるんですけども、そんなことが、なかなか検討も要りますけども学校さんの方でもですね、そういう学年行事とか、そういうものだとかにスポーツの楽しさを取り入れるようなのがあればなと思うんですけど、実際学校事業とかねやっぱり余計なものになる状況にあって難しいと思いますけれども、そういう一つの子どもたちの健康あるいはその余暇の楽しみ方等々に含めてそういうのもあったらいいかなとちょっと思いました。以上です。

（委員）本当に出前講座なんかもスポーツ推進員でいろんな世代の方にお年寄りのグループが多いんですよね。やっぱり行くところは。いろんな世代の方に使っていただければ、もっと新しいスポーツも広められると思うし本当に体を動かす機会があるだけでも違うと思うので、ぜひお願いしたいなと思います。

（教育長）確かに例えば放課後子供教室とかいろんな活用が考えられる。ニュースポーツの普及は基本施策 4 の①「スポーツ・レクリエーションの振興」あたりに入れられると思いますし、あとお話しにあったスポ少なんかは③の「地域におけるスポーツ活動の支援」あたりにも入ってこれるのかなと思いますけどね。

（委員長）移行しやすいようなキーワード等はずっと入るといいのかなとは思っているんですが、私もこの会津地域で活動してるっていて、放課後児童クラブ行くと結構動きたいって子が多いんで、動きたくない子もいるんですけど動きたい子の方が多い。やっぱり担当されてる方々が、体力がすごい追いつかないんで「大学生相手にして」みたいな話がや

っぱりいつも多いんですねどちらかというと。一緒に子供たちと遊べればいいよっていうか一緒に体を動かしなさいって学生には指示をしてですね、内容はもう学生に考えさせてやってるんですけども、ですから何かもねそういう機会を増やすことを皆さんいろんな方々、私がつたまたま会ってる方々が体を動かすのはお得じゃない担当の方々、結構シルバーの方々がやられてるところに行くケースが多いので、なので指名されるという、運動する機会なんかもっとあればいいのと、トータルで考えますと今日も生涯学習課の所で、健康が専門のところだと健康なまちづくりっていうところで、子どもから高齢者まで繋がって、やっぱり地域愛が多い子たちだとか、いろいろしっかり教育されてるなというところが多いんですけど、そのまま残ったときに果たして本当に健康に生活できるのかということですね。こちらの地域にいて。の裏付けになるようなことがしっかり施策としてもあってもいいのかなというふうには思っているんで、そういったことは今後この次のレベルのところであっていいかなというふうには思っています。子どもの方もそうですし、高齢の方も、それとまだ美里ではやってないんですけど、坂下も会津若松といろいろなところで高齢の教室教室というか、介護予防にいたしましてもさせていただいてるところあるので、元々そういったところが浸透していくといいなと思ってるのもすごくたくさんありますので、皆様方からさらにご意見いただいて、キーワード入ってくると良いのかなと思ってるんですけど、最近幼児教育の講演も頼まれるので、最近行ったところで言ったのが、「今の目の前の子たちは100年生きるんですけど100年きちんと健康で生きれますかね」って先生方考えないと、もちろん勉強も大事なんですけど、やっぱり基本的な健康作りをしっかりとやるってことが最後生かされていくので、やっぱりこの100年間ですね。2000年生まれ以降の半数が約100歳超えるっていうふうに言われてるっていう話なので、そこを見据えて、やはり健康に生き続けられる町っていうことの裏付けとなるようなことが実施できるという側面を必要かなというふうにも最近考えてるところなんで、そういったことをしっかりとやれるような環境づくりというか、基本計画ができるといいなと思っておりますので特に町民の方々からのご意見をさらに入れていただいて、より良い町になることを私も望んでいるので、そこからのご意見いただいたと思うんですがさらにご意見ございましたらお願いします。

(委員) ちょっと言っていていいでしょうか。8ページなんですけれども基本施策1のところの②のところ、キーワードで「無形民俗文化財の伝承者育成」と、それから基本施策3のところですね、「無形民俗文化財の保存活動」と保存するためには後継者を育てない限り保存にならないんで、その関係ですね、そしてこの基本施策3のところの郷土資料館の活用って出てきてるので、それに引きずられて「魅力ある展示」ってあると思うんですけども無形民俗文化財の展示って、画像とかお祭りの映像流すとかっていうのはわかりますけれども、ちょっといまいちピンとこないっていうアンバランスが非常に強い印象。

(教育長) こども無形を取った方がよろしいですね。

(委員) ですねはい。

(教育長) むしろ、施策 4 の方に「無形」けが入ってくるのかなと思うんですが。

(委員) 施策 4 のところで民族芸能って書いてあるんですが、そこをむしろ「無形民俗文化財」にしないとお祭りとか民俗行事も落ちてしまうので、その辺りの用語の整理ですかね。関連して 4 ページのところの「地域とともにある学校づくり」の③のところで「児童生徒が地域で行う活動」で「地域の伝統行事の参加」と書いてくださっているんですけども、たまたまこの前永井野甚句の練習を見に行きまして、太鼓を叩いてるのが宮川小学校の子どもたちで、保存活動に参加してるっていうのは何人か 8 人か 9 人位いるんですけども、その指導してる方が半分こぼしてたんですけども、小学校の時に一生懸命やってくれるんだけど中学校行くと部活忙しくなって高校になるとまた別なことに忙しくなって、高校卒業して進学しちゃうとそれっきり戻ってこない。盆踊りの時期に戻ってきてくれる子は 1 人 2 人いるんだけど、だから 1 回教えればそういう子も出てくるので、次の学校教育と連携とかですねもう少し工夫もあると思うので、記載の仕方のところですねちょっと一工夫あってもいいのかなということがありました。

(委員) あとちょっと前から個人的な違和感なんですけど、文化財の保存の基本施策 4 のところで、なぜ向羽黒山城だけ、固有名詞で遺跡名が出てくるのかがちょっと前からずっともう違和感を持ってるんです。国の史跡だと言ってしまえばそれまでなんですけれども、重要文化財はたくさんありますし、国の史跡だけでもっとおかしいことがあって、下郷町は会津西街道っていうのは国の史跡になっているのですけれども、美里町と下郷町の境を越えると国の重要文化財が何も指定のない美里になってしまうという、単なる史跡になってしまうんですね。同じ 1 本の交通路、道なんですけども、ですから、なぜこういうふうなのかちょっとよくわからなかった。

(教育長) 確かにそうですね。固有名詞出さなくても施策として立てられそうですね。

(委員) 遺跡とか史跡とかそういう言い方もありますし、天然記念物もありますしね。いろんなそういう表現ちょっと変えてもいいんじゃないかなと。

(委員長) 美里町はすごく総合型地域スポーツクラブの皆様が頑張って色々な教室をやってくださったっていう印象があって、コロナで最近の事情がわかりませんが少し前は非常に活発にやっておられたという印象があって、体育系の人間からするとそういう印象が強いんですが、そういったところが継続されるような形になるといいなと思う。何かキーワードとかよろしいですか。

(委員) 第 3 期はトップアスリートとかって結構文言出てるんですけど、私達はちょっとトップアスリートを呼び終えたんですよ。お金がかかるので。普通に助成金使って何とかとか、あとは事務局のコネを使って何とかとか、やはり、来た時に子どもたちとてもキラキラして、教室に参加してくれていることもあるんで呼びたいんですけどお金の面で呼べない。これそういうのはスポーツ推進委員さんも一緒ですけど、町全体でそういう活動って大事だと思うんです。子どもたちの経験って勉強ばかりではなくて、世界陸上

出場者でその人に教わったとか、そういう経験って大人になっても忘れない経験をえるという感じで、一緒に考えて頂きたいなと思う。一応ウォーキング大会とかここに書いてありますけど、やることを前提に消極的な話に聞こえてきたので、ハーフマラソンでもいいですけどやることを前提にちゃんと文言を入れていただきたい。

（委員）4ページの基本施策4の③の「地域との協働による体験活動の充実」で、「児童生徒が地域で行う活動ボランティア」ってあるんですけど、例えば新鶴小・中のお子さんたち「ヤンボラ」ってあるんですが、昔社会教育主事の先生が立ち上げてくださったもので、今子どもたちが地域の運動会のボランティアの関わりも少なくなってきたので、何年か前からヤンボラの子どもたちが一生懸命やってくださってるんですけど、例えばこういう中学生とかが地域って言うとうちのクラブも入るんですけど、ボランティアをお願いすることって可能なんでしょうか。もちろんバイト代なんかはできませんけど、そういうのもこの児童生徒が地域に出て行う活動に入るんですけど、もし例えば中学校にボランティアをお願いしたいって言った場合、それは学校ぐるみなのか、学校行事としてのボランティアの中で、地域なのでそういうのも受けてくださるのか。すいません、関係ないんですけど。

（委員）どちらかっていうとこちらサイドのご返答ご回答になると思っているんですが、その部分っていうのが今それぞれの中学校区で進んでいるコミュニティスクールっていう、地域の方と学校で一緒に進んでいきましょうっていう話の大きな柱だと思ってます。なので、そういったところでお話を委員の皆さんとしていく中で、いいよねって言ってできるよねってなっていくと、実現していく可能性もあるんだろうなというふうには思ってます。

（教育長）ここで想定しているのは、基本的にはその学校の教育課程の中で、取り組みましょうということ saying してるわけですけども、今委員におっしゃっていただいたようなものっていうのは実際できることだと思ってます。ですから私の地元でもかつて中学生だとかが町民運動会も何十人も大々的に手伝ったりとか、普通にやってますんで、そこはもう学校との連携の中で十分できることだなんていうふうに思いますし、多分学校でこれだけで協力できると手挙げてなんて言うと、部活休んでも行くっていう子が多分いると思うんですよね。さっき言った地域学校協働活動の中の一環としてやってもいいですし、個人的に手伝いたいと思う子が手伝ってくれる環境があってもいいし、本当の意味で地域とともにある学校なのかなと思います。

（委員長）打算的なところも含めて大学なんかでもやっぱりボランティアをやったかというのは評価に入ってくるので、高校だとボランティア証明書とかが欲しいっていうような言い方されてるので、何かそういうことを証明していただいたりとかあと我々評価するときは継続性があるかどうかで、単発は評価しないっていうような姿勢で、もちろん聞きますけども大学生になっちゃうともう単発でも何でもいいので、「今回もボランティア行きました」って言えることをたくさんして、とにかくたくさんあった方が自分のあり得る「ガ

クチカ」ってということで学生時代に何に力を入れてあったかっていうようなところで、部活動だけではなくて、ボランティア活動っていうのがありますので、委員おっしゃったようにいろんな形でやれて、保険のところだけが学校サイドとしてはどうやってやるかっていうので、一番簡単なのはボランティア保険とかがあるというところが最低限のところなのかなと思うので、うちの大学も積極的に出すように、できるだけ行きなさい、できるだけ地域に貢献しなさいということは、常に私は話はしているので、だから機会があればお声掛けいただけるといいのかなと思いますけど、タイミングに本当よるので、そういうところがもっと活発になっていくといいのかなと思います。

(委員) それは完全ボランティアなんですか。交通費も出るので、保険だけありますよという形で。

(委員長) いろんな形があります。全くのボランティアもあります。半分以上はもう全くじゃないですか。学生の場合ですね。自治体が声をかける場合は予算があるケースがあって、昼食とか、あと交通費の一部っていうのがありますが、です、役所の方には「少しでいいからつけてください」ってお願いはしていますが、勿論それはなしでも行ける範囲で行きなさいとは言っています。

(委員) 少子高齢化といいますか、地域活動推進委員という形で、各地区でスポーツ活動、イベントとか毎年減る一方なんですよ。だからそういう中で無償で言ったらすごく言葉悪いですけども、そういう働き手に報酬等があればすぐ助かるなと思ったものですから。

(委員長) 実は放課後児童クラブを若松で受けるときは、学生に直接頼んでくださいって言って、学生が謝金を受けてます。美里町は私に依頼いただいて、形式上そういう形をとってますけど学生だけでどうですかっていう話をだんだんしていって、それでいいって言うていただいたら、もう学生と直接やってくださいって言う。私はお金要りませんので。実際に子どもと体動かすのは私ではなくて学生なので、そんな形でやってますので、いろんなところで情報交換等できるといいのかなと思います。

(委員) 次回の会議は文章化されたものが出てくるわけですか。

(事務局) はい。

(委員長) だいぶ長くなってしまいましたけども、(2)の施策の体系と展開についてというところはよろしかったでしょうか。それでは、次に移らせていただきます。

(3)の指標案について事務局より説明お願いいたします。

説明者より、会議資料に基づき(3)について説明

(委員長) 資料3の方ですね。皆様方からご意見等ございますでしょうか。

(委員) 確認ですけども、1の括弧二つ目「中学校が身近に感じられましたか」ってのはこれ小6対象ですよ。

(事務局) すみません。抜けておりました。その通りでございます。

(委員) それから3については、高学年用が出てないんですが。これもあれありますよね。

(事務局) はい。再度提示できればというふうに思います。なるべく多くの対象から指標

をとった方がいいかなというふうに思っておりますが、やっぱり言葉はとか場合に依じて変えないといけないところあるかななんて思いますので、その辺り再度工夫したいなと思っております。

（委員）今までの指標で、現時点でこちらの候補に乗っていないものは、前回の指標であったものが載っていないものは、ここではないんですけど。

（事務局）例えばですが、現在の第3期の指標である一つ目の「平日の家庭学習時間」は、家庭学習に対して町として施策を何かして家庭学習が上がったかどうかというようなものを考えるのはなかなか難しいのかなというようにところで、学習意欲が高まった成果というようなこととして見れなくはないと思うんですが、やはりそのあたりは新しく提示するようなものに置き換えさせていただくというように考えておりました。

（委員）例えば今お金を出していただいているWEBQ-Uなんかもその指標としては外していく方向ですか。

（事務局）実際に施策でお金を使わせていただいているものもあるとは思いますが、その辺りもやっぱり全てを網羅して指標を作っていくようなところ、例えば子ども教育の方でも施策は基本施策がありつつ、生涯学習課の方でいろいろあるわけなんです、それぞれに対して細かく作っていくことは難しいかなと思っておりましたので、やはり全体を把握する指標として、3つ程度というように考えておるところでございます。それから総合計画の方で上げている指標もございますので、そちらと重複しないというようにところも重要なかなというふうに思っておりました。総計の方は知徳体に関わる部分で、知の部分は、ふくしま学力調査の方ですとある程度広い幅広い学年見ることができるので、そちらの方の指標でやっぱり力を伸ばしたかどうか、基準入りしたかどうかではなくて、やはり子ども1人1人が伸びたかどうかというようにところでの指標の方考えさせていただいたところです。徳の部分については、「役に立ちたい」これも全国学調の調査ではあるんですけども、一つだけのアンケートではなくて自己効力感とか成長意欲、将来夢を持つ児童生徒の割合というようにところで、こちらふくしま学調で見ると、小学4年生から中学2年生までで見ることができますので、指標も単独のアンケートではなく、複数の指標を一緒に合体させていただいて平均値を見ていくというように考えておりました。それから体の部分こちらの方は継続になる部分ではあるんですが、「肥満傾向の割合」というようにところで、ただこれまでは小学6年生それから中学3年生というようにことが特出しされて、1学年だけ出た数値であったんですが、これについても小1から中3まで全ての数値を持っておりますので、全部の数値で変化の方見ていくというようにところで考えておるところです。

（委員長）よろしいでしょうか。他にご意見等ございませんか。では3は終了で、（4）その他協力お願いいたします。

（事務局）事務局からは、特にございません。

（委員長）では、以上で本日の協議事項は全て終了しましたが、委員の皆様から全体を通

してまたそれ以外の件についても、何か質問やご意見はございませんでしょうか。（意見なし）それでは以上をもちまして本日の協議は全て終了いたしましたので、進行を事務局へお返しいたします。皆様のご協力によりスムーズに協議を進めることができました。誠にありがとうございました。

4 その他

（１） 次回策定委員会の開催日程について

- ・ 11 月上旬～中旬で委員長と調整の上決定

（２） その他

特になし

6 閉会

以上、開催記録として報告します。